

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	ヴォーカルⅠ	
科目基礎情報					
開設学科	声優・演劇科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	2単位	授業形態	実習		
教科書/教材	必要に応じて楽譜・資料を配布する				
担当教員情報					
担当教員	加藤修子・笹倉舞		実務経験の有無・職種	有・声楽家　音楽家　女優	
学習目的					
人は身体全身を使い大きな声で泣いて生まれてきた。言葉を覚えるまでの期間、その声の表現はどんなに豊かで周囲の人間を一喜一憂させてきたことだろう。まずはそのことを思い起こし、今まで当たり前は無意識に発してきた自分の声について改めて意識的に取り組んでみる。歌という表現方法を通じ、全身を使った自分の声を知り、社会に出てあらゆる場面で必要とされる「人に伝えられる声」を育てる楽しさに目覚めてゆくことを前期の学習目標とする。					
到達目標					
身体全身を使った声のためのトレーニングを積み重ねることにより、これまで、口先や喉を多用してきた声、不自然に作った声、ただがむしゃらに出してきた声、音楽にのって自己満足で歌ってきた声、自信を失くしたか細い声、等がどのように変化したかを自覚することができる。 さらに、課題曲の発表を通して、作品表現としての自分の歌声を、客観的に捉えられるようになり、自己分析できるようになる。					
教育方法等					
授業概要	ヴォーカルⅠでは「身体全身が楽器である」というテーマに基づき、身体の支え、中心軸、正しい姿勢、鍛える筋肉、緩める筋肉、鼻腔の開放、共鳴の位置、口の開け方、より深い腹式呼吸のための様々な呼吸法のトレーニングを積み重ねていく。それを基本にして具体的な発声練習に取り組み、様々なジャンルの曲を用いて実践する。そして、自分を解放して伸び伸びとした響きのある声を育てることを目指す。				
注意点	各自が真剣に自分の能力を100%伸ばすことに集中し、その成果を上げるために環境づくりを重要視し、お互いを認め合い、高め合える場とすること。共働で課題曲を仕上げていくために遅刻をしない、無断で休まないといった基本的なことに留意すること。学生自身が今後 社会で自立する事を意識した授業への取り組み姿勢を要求する。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備　考		
	試験・課題	60%	声・音程・リズム・歌の表現力を総合的に評価する。		
	平常点	10%	理解度、授業に取り組む姿勢、成長度を評価する。		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業内の発表について評価する。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	呼吸・発声の実践		身体の支え、中心軸、鼻腔の開放を感じ自分の声を知る		
2回	音楽の知識と観客		音楽の知識を学び、人前で歌を歌うことを理解する		
3回	「身体全身が楽器である声」（1）		身体の隅々まで楽器を開いて声を出し深い呼吸法を理解する		
4回	「身体全身が楽器である声」（2）		喉声と響く声、台詞と歌の音域の違いを理解する		
5回	「身体全身が楽器である声」（3）		声帯の動きを理解して力む声と伸びやかな声を比較する		
6回	「身体全身が楽器である声」（4）		鍛える筋肉と緩める筋肉を正確に知る		
7回	「身体全身が楽器である声」（5）		共鳴、口の開け方を知り、声と言葉の位置を知る		
8回	課題曲の練習（1）		各声部ごとの音取		
9回	課題曲の練習（2）		各声部ごとの音取とソロパートを理解する		
10回	課題曲の練習（3）		各声部ごとの音取とアンサンブルを理解する		
11回	課題曲の練習（4）		曲の最後までを歌えるようにし役割分担や各担当者を決める		
12回	課題曲の練習（5）		各声部ごとの確認やコーラスの最後までを確認する		
13回	課題曲の練習（6）		正しい音程を理解し、歌唱する。全員で歌唱を行ったときのハーモニーを聴き、音の和声を理解する。		
14回	課題曲の練習（7）		正しい音程・リズム・歌詞を正確に理解し、歌唱する。ソロとアンサンブルの歌唱箇所を確認し実践する。		
15回	歌の発表		ソロパート、コーラスアンサンブルそれぞれを意識して発表する		